

お莊厳と仏事の作法

浄土真宗 本願寺派（西本願寺）



「門徒 もの知らず」はもともと「門徒 もの認為知らず」といて、「私たち門徒は、迷信や俗信・祈祷・日の吉凶などに一切とらわれることがなく、念佛の教えこそが眞実である」という浄土真宗のみ教えが誤解されたものです。

浄土真宗の仏事には一定の作法やきまりがあります。「信は莊厳から」と言い、門徒として正しいお莊厳と仏事の作法を心得て実践していくことが大切です。

●お問い合わせは

兼重山 金蔵寺 〒720-1525 広島県神石郡三和町上2374
Tel.08478-5-4333 Fax.08478-5-4334

お仏壇のお莊嚴

仏具を正しく配置してお仏壇を飾ることをお莊嚴といいます。お仏壇は浄土真宗のご本尊である阿弥陀如来を安置するところです。また、浄土真宗の宗祖である親鸞聖人と本願寺中興の祖である蓮如上人は、如来さ

まのおすくいを喜び、私たちを如来さまに遇わせてくださったお方として、両脇にお懸けし敬慕するのです。ご本尊、お脇懸、御文章は本願寺からお受けするものです。住職に相談してください。

ご本尊とお脇懸

ご本尊の阿弥陀如来には、絵像と木像と「南無阿弥陀佛」の六字名号があります。お脇懸は、右側に親鸞聖人の御影像または「帰命尽十方無碍光如來」の十字名号を、左側に蓮如上人の御影像または「南無不可思議光如來」の九字名号をお懸けします。



五具足のお莊嚴 一仏事などのお飾り一



お仏壇へのお飾りは表紙の写真を参考してください。

入仏法要と遷仏法要

仏壇に新しくご本尊をお迎えする時は、入仏法要をお勤めします。慶びの法要ですからローソクは赤色、お仏飯はお赤飯にします。また、仏壇の修理などのためにご本尊をお移しする時は、遷仏法要をお勤めします。真宗では「お性根入れ」とか「お性根抜き」などとは言いません。

仏具の名称と配置

仏具は寺院の内陣に準じて配置します。最も基本となる仏具は、ろうそく立・花瓶・香炉でこれを「三具足」といい、普段のお飾りはこれで十分です。三具足にろうそく立と花瓶を追加して一对にしたものを「五具足」といい、法事など仏事の時にお飾ります。香炉は、金香炉と土香炉をセットで一つと数えます。ここに示したのは参考例ですので、わからないことは住職の指導を仰いでください。

- ① ご本尊 } ご本尊・お脇懸とも絵像か名号に
② お脇懸 } 統一するのがよいでしょう
- ③ 扉 } 折り畳んで開きます
- ④ 帷障子 }
- ⑤ 琨 ... ご宮殿の屋根の隅に吊るします
- ⑥ 金灯籠 ... 六角形のものが正式です
- ⑦ 輪 灯 ... 豆電球を使用してもかまいません
- ⑧ 戸 帐 ... ご本尊の前の柱の間にかけます
- ⑨ 仏飯器 ... ご本尊の前だけでもかまいません
- ⑩ 華 滋 ... 檀などの青木を挿します
- ⑪ 供 箔 ... お供物を一对お供えします
高坏は正式な仏具ではありません
- ⑫ 金香炉 ... 通常は香を入れません
- ⑬ 香炉台 ... 三本の前足を正面にして置きます
- ⑭ 打 敷 ... 真宗は三角形で仏事の時にだけ使用します
弔事には裏の白い方を表側にします
- ⑮ 花 瓶 ... 他の仏具とのバランスをとりましょう
- ⑯ ろうそく立 ... 炎が他の仏具を焦がさないように注意します
- ⑰ 土香炉 ... 紋があれば正面になるように置きます
- ⑱ 香 盒 ... 焚香用の抹香を入れます
- ⑲ 過去帳 } 正面を避けて右隅か左隅に置きます
- ⑳ 経 卓 ... 経本のほかは何も置きません
- ㉑ 御文章箱 ... 蓮如上人の正面に置きます
- ㉒ 鈴(鑿) ... お勤めのときだけ打ちます
手を合わせるだけのお参りでは打ちません
- ㉓ 焚香盆 ... 左側に香炉を右側に香盒を載せます
回し焚香用として使います

みつぐそく
三具足のお莊嚴 —日常のお飾り—



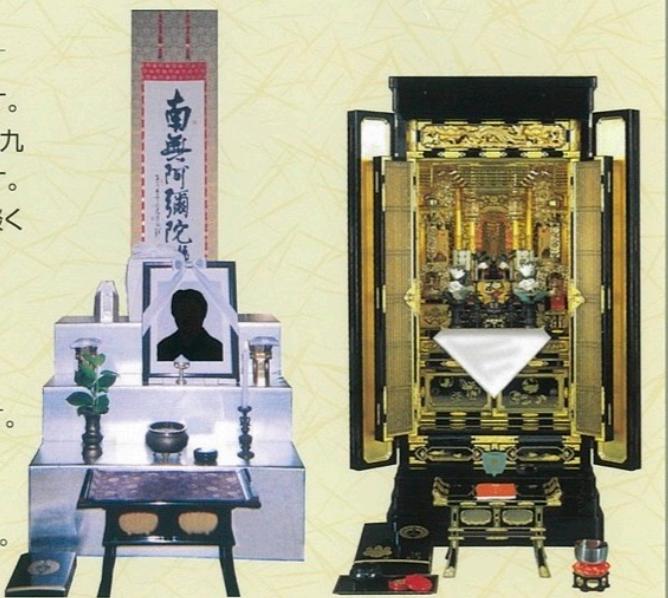
写真は小型仏壇の三具足お飾り例です
幅約53cm 高さ約75cm



ちゆう いん だん
中陰壇のお莊嚴 —満中陰までのお飾り—

亡くなつてから四十九日間を中陰といい、中陰壇を設けます。満中陰を三十五日とする地方もありますが、正しくは四十九日を満中陰といつて、特に丁重な法要をお勤めし納骨します。分骨を京都の大谷本廟(西大谷)へ納めます。住職にご相談ください。

- 中陰壇はお仏壇のすぐ横に設置します。
- 正面に「南無阿弥陀仏」の名号をお懸けします。
- 上段に遺骨と遺影を安置し、下段には三具足を配置します。
- 花瓶には欒または常緑樹を生けます。
- 仏具はお仏壇のものとは別に用意します。
- お勤めは、中陰壇の前ではなく、お仏壇の前で行ないます。
- 満中陰が過ぎたら取り払います。



お仏壇に入れてはいけないもの

他宗の仏像や水子地蔵、お土産の仏像などを入れてはいけません。浄土真宗では、阿弥陀如来一仏に帰依することを教えてくれています。



お守りやお札を入れてはいけません。「厄除開運御守」とか「護摩供御札」などのお守りやお札は、お念仏を喜びとする浄土真宗の教えに背くものです。



位牌は浄土真宗では使いませんので、過去帳に改めましょう。位牌は中国の道教のもので、仏教とは関係の無いものです。処分については住職に相談してください。



故人の写真も仏壇に入れません。飾る場合は、お仏壇の真上を避けましょう。



浄土真宗の作法



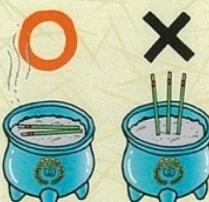
服装と念珠(数珠)

- 門徒の正装は門徒式章をかけ念珠を持ちます。
- 浄土真宗では単輪の単念珠が正式です。
- 念珠を繰ったり、擦り合わせて音を鳴らすことはしません。
- 門徒式章や念珠は大切な法具ですから、畳や床の上に直接置くことは慎みましょう。

焼香と燃香(線香)

香炉で抹香を焚くことを焼香、線香を燃やすことを燃香と言います。

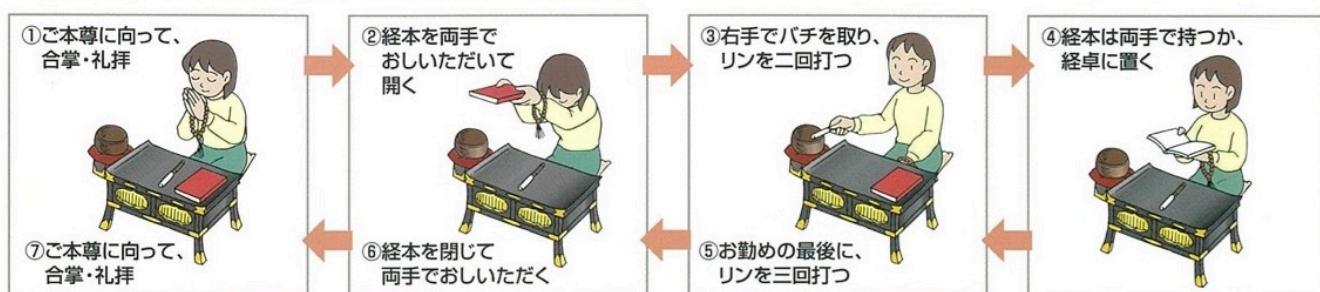
<ポイント>・香をおしいただかない・焼香は一回だけ・線香は立てずに折って横に・リンは打たない



お勤め(勤行)

お勤め(お経の拝読)するのは、亡き人の供養や慰霊のためではありません。今生きている私たちがお釈迦さまのみ教えをいただくことなのです。その場にいる者全員で声を出して拝読しましょう。

経本は大切な物ですから、畳や床に直接置かず、経卓がない場合はひざの上に置きます。



お仏壇のお給仕

お仏飯は、毎朝ご飯が炊けたら一番に蓮のつぼみの形に盛ってお供えし、午前中にはお下げします。



お供物は、中央から餅・お菓子・果物の順で、一对お供えします。酒類・煙草などの嗜好品は避け、早めにお下げして家族でいただきます。



ろうそくの、光は阿弥陀如来の「慧」を、熱は「慈悲」のぬくもりを象徴しています。お勤めの前に火をともし、終ったら消すようにします。

お水は、華瓶に水を入れ、桜または青木の小枝を挿してお供えします。湯呑みやコップなどは使いません。



お花は、松などの青木を中心にして四季折々のお花をお供えします。とげのあるものや匂いのきつい花、つるに咲く花は避け、造花は用いません。



お仏壇の掃除は、漆塗りの部分は柔らかい布でからふきし、金箔の部分は直接手を触れないようにし、羽はたきや筆などで軽く払います。

習俗・不適切な言葉

「忌中」のお札

いたしません
しいてするなら「還淨」か「帰淨」

一膳飯 守り刀 逆さ掛け

いたしません

旅装束(手甲・脚絆など)

いたしません
念珠と門徒式章をかけます

告別式

葬儀式

祭壇

莊嚴壇

引導を渡す

おかみそりを行ふ

戒名

法名(本来は生前中にもらう)

ご靈前

ご仏前 ご尊前

靈 御魂(みたま)

故人

永眠する

往生する

旅立つ 他界する

お浄土に生まれる

草葉の陰 天国冥土

お浄土

安らかにお眠りください

私たちをお導きください

祈る

念する

冥福を祈る

哀悼の意を表わす

喪主

施主 遺族代表者

出棺時の茶碗割り

いたしません

清めの塩

使いません

忌明け

満中陰法要